

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 笠岡国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

増加しつつある日本語講座の初心者に対応するため、初級の講座を設けた。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月31日 13:00～ 14:30	市民活動支援センター会議室	中村 普子 土屋恵美子 岡崎 純子 瀬戸 恒子 西井 和子 花澤 孝子 平井 信幸 山田 裕美	・笠岡のニューカマー外国人の傾向と支援について	・日本語より、収入を重視しすぐ働きに行く。なるべく日本語講座に来させたい。 ・外国人と同時に配偶者の支援も必要。配偶者が外国人の社会に出るきっかけになる。 ・スムーズに教室を運営するために、最初来た時日本語学習歴、ひらがなが読めるか、アンケート形式のテストをしてみてもどうか。 ・漢字の国でない人も、やりだすと抵抗がなくなる。 ・アシスタントが必要
2月26日 14:00～ 16:00	笠岡国際交流協会事務所	中村 普子 石田亜由美 土屋恵美子 瀬戸 恒子 平井 信幸 西井 和子 花澤 孝子 山田 裕美	・日本語講座生と子ども問題について ・防災について	・先生と保護者の疎通ができていないか。 ・日本食がないので給食が食べられなかったりする。 ・バイリンガルでありながら、どの言語を選択するかは夫婦の考えで決まる。 ・学校の事は父親が協力

			<p>的であることが大切だ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災時は通訳ボランティアが必要。防災マニュアルを渡すだけでなく、説明が必要。 ・行政が制度として方針を決め、形を整えて日本語講座を定着させることが必要。そうすれば、教室運営の悩みも行政と共に解決策をさぐることができる。
--	--	--	--

【写真】



運営委員会

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 笠岡国際交流協会 日本語講座 初級クラス
- ② 開催場所 笠岡市中央公民館
- ③ 学習目標 日本に来たばかりの人に、日本語を学びながら、日本の習慣を知ってもらう。
- ④ 使用した教材・リソース 教科書： みんなの日本語、大地 初級
- ⑤ 受講者の募集方法
笠岡市の広報誌やチラシで募集した
- ⑥ 受講者の総数 30 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身 中国 18人、アメリカ 2人、インドネシア 2人、台湾 2人、イタリア 1人、タイ 1人、
ニュージーランド 1人、バルバドス 1人、ブラジル 1人、スウェーデン1人)
- ⑦ 開催時間数(回数) 73 時間 (全37 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	6月2日 13:0~15:00	2時間	12人	中国・中国語（7人） アメリカ・英語（2人） インドネシア・インドネシア語（1人）、 イタリア・イタリア語（1人） ブラジル・ポルトガル語（1人）	教授者1人 補助者3人	はじめまして みんなの日本語使用
②	6月9日 13:00~15:00	2時間	7人	中国・中国人（4人） イタリア・イタリア語（1人） ブラジル・ポルトガル語（1人） インドネシア・インドネシア語（1人）	教授者1人 補助者1人	NはNです みんなの日本語使用
③	6月16日 13:00~15:00	2時間	2人	中国・中国語（2人）	教授者1人	日本語の音・文字
④	6月23日 13:00~15:00	2時間	5人	中国・中国語4（3人）	教授者1人	このN,そのN. あのN,そうです/そうじゃありません
⑤	6月30日 13:00~15:00	2時間	1人	ブラジル・ポルトガル語（1人）	教授者1人 補助者1人	起きます/寝ます、勉強します/終わります
⑥	7月7日 13:00~15:00	2時間	1人	ブラジル・ポルトガル語（1人）	教授者1人	日常のことば あいさつ（紹介）
⑦	7月14日 11:00~12:00	1時間	12人	中国・中国語（11人） インドネシア・インドネシア語（1人）	教授者4人	子育て支援教室
⑧	7月14日	2時間	1人	中国・中国語（1人）	教授者1人	日常のことば

	14:00~16:00					
⑨	7月21日 13:00~15:00	2時間	2人	中国・中国語(1人) バルバドス・英語(1人)	教授者1人	日常のことば (交通)
⑩	7月28日 13:00~15:00	2時間	2人	中国・中国語(2人) バルバドス・英語(1人)	教授者1人	日常のことば (身体・病気)
⑪	8月4日 13:00~15:00	2時間	2人	中国・中国語(2人)	教授者1人	日常のことば (遅刻・単位)
⑫	8月18日 13:00~15:00	2時間	2人	中国・中国語(2人)	教授者1人	日常のことば (料理・食材)
⑬	8月25日 13:00~15:00	2時間	3人	中国・中国語(3人)	教授者1人	日常のことば (こそあど)
⑭	9月1日 13:00~15:00	2時間	2人	中国・中国語(2人)	教授者1人	日常のことば (こそあどを使って)
⑮	9月8日 13:00~15:00	2時間	1人	中国・中国語(1人)	教授者1人	日常のことば (こそあど発展練習)
⑯	9月15日 13:30~15:30	2時間	7人	中国・中国語(5人) タイ・タイ語(1人) ブラジル・ポルトガル語(1人)	教授者1人	名詞文「大地」
⑰	9月22日 13:30~15:30	2時間	4人	中国・中国語(3人) タイ・タイ語(1人)	教授者1人	こそあど 名詞文「大地」
⑱	9月29日 13:30~15:30	2時間	3人	中国・中国語(2人) タイ・タイ語(1人)	教授者1人 通訳1人 (タイ語)	こそあど、数字 名詞文「大地」 (タイ語)
⑲	10月6日 13:30~15:30	2時間	6人	中国・中国語(5人) タイ・タイ語(1人)	教授者1人 通訳1人 (タイ語)	名詞文(昨日・今日など) 「大地」
⑳	10月13日 13:30~15:30	2時間	1人	タイ・タイ語(1人)	教授者1人 通訳1人 (タイ語)	名詞文(時刻・時間) 「大地」 (タイ語)
㉑	10月20日 13:30~15:30	2時間	2人	中国・中国語(2人)	教授者1人	動詞文「大地」
㉒	10月23日	3時間	9人	中国・中国語(4人)	教授者5人	AEDを使った救

	13:30~16:30		全 44 人	バルバドス・英語 (1 人) スウェーデン・ス ウェーデン語 (1 人) インドネシア・インド ネシア語 (1 人)		命講習と応急 処置
⑳	10月27日 13:30~15:30	2時間	1人	タイ・タイ語 (1人)	教授者1人 通訳1人 (タイ語)	時刻のことば 動詞文「大地」
㉑	11月10日 13:30~15:30	2時間	4人	台湾・中国語 (2人) インドネシア・インド ネシア語 (1人) ニュージーランド・英 語 (1人)	教授者1人	動詞文「大地」
㉒	11月17日 13:00~15:00	2時間	3人	台湾・中国語 (1人) タイ・タイ語 (1人) ニュージーランド・英 語 (1人)	教授者1人 通訳1人 (タイ語)	動詞文「大地」
㉓	11月24日 13:00~15:00	2時間	2人	台湾・中国語 (1人) ニュージーランド・英 語 (1人)	教授者1人	動詞文「大地」
㉔	12月1日 13:00~15:00	2時間	3人	台湾・中国語 (1人) タイ・タイ語 (1人) ニュージーランド・英 語 (1人)	教授者1人	NはNへ動詞 「大地」
㉕	12月8日 13:00~15:00	2時間	1人	台湾・中国語 (1人)	教授者1人	Nは_行きました。 形容詞文 「大地」
㉖	12月15日 13:00~15:00	2時間	2人	台湾・中国語 (1人) タイ・タイ語 (1人)	教授者1人 通訳1人 (タイ語)	形容詞文 「大地」
㉗	12月22日 13:00~15:00	2時間	2人	台湾・中国語 (1人) 中国・中国語 (1人)	教授者1人 補助者1人	形容詞文 「大地」
㉘	1月12日 13:00~15:00	2時間	5人	台湾・中国語 (1人) 中国・中国語 (2人) タイ・タイ語 (1人)	教授者1人 通訳1人 (タイ語)	形容詞を覚える

				ニュージーランド・英語 (1人)		
③②	1月19日 13:00~15:00	2時間	4人	中国・中国語 (2人) タイ・タイ語 (1人) ニュージーランド・英語 (1人)	教授者1人 通訳1人 (タイ語)	Nは形容詞N です。「大地」
③③	1月26日 13:00~15:00	2時間	2人	中国・中国語 (2人)	教授者1人	時刻のことば/ 会話練習 ~から~まで 「大地」
③④	2月2日 13:00~15:00	2時間	4人	中国・中国語 (2人) タイ・タイ語 (1人) ニュージーランド・英語 (1人)	教授者1人 通訳1人 (タイ語)	誘うことば 時刻のことば 「大地」
③⑤	2月9日 13:00~15:00	2時間	4人	中国・中国語 (2人) タイ・タイ語 (1人) ニュージーランド・英語 (1人)	教授者1人	NがNにあり ます。場所のこ とば「大地」
③⑥	2月16日 13:00~15:00	2時間	4人	中国・中国語 (2人) タイ・タイ語 (1人) ニュージーランド・英語 (1人)	教授者1人 通訳1人 (タイ語)	NがNに <u>数詞</u> あります/いま す。「大地」
③⑦	2月23日 13:00~15:00	2時間	5人	中国・中国語 (3人) タイ・タイ語 (1人) ニュージーランド・英語 (1人)	教授者1人	NはNが好き です/わかりま す。「大地」

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

- ・「〇〇さんはどんな人ですか」の問いに対して「背が高いです」「髪が長いです」などの答えを導き出したかったが、英語では How tall~, How long~ などの表現なので、なかなか質問の意味を理解してもらえず困った。
- ・単語学習の時、先生が単語を書いた紙を部屋中に貼った。先生が言った単語を生徒が探すゲーム感覚の授業だったが、生徒は楽しんで覚えられたようだ。
- ・「私は〇〇がほしいです」の表現の時、全員ブランドの品物がほしいと言ったので笑ってしまった。



語彙の学習①



語彙の学習②

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
なし				

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
仕田原 聡子	英会話教室 講師 笠岡国際交流協会 会員	特になし。アメリカ留学経験と、タイに7年の滞在経験。	10回	通訳

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

日本に来て間もない、あまり日本語が話せない受講生が、努力して日本語を話そうとし、間違えても何度も言い直し何とかして習得し、日本に溶け込もうとしている。出席率もよく、学習態度もよいので、教授者も張り合いを感じている。

② 学習者の習得状況

来日して間もないので、能力試験を受験するほどではないが、地道に学習している。これまでの初級受講生の中には今年日本語能力試験4級合格者や、日本語で運転免許を取得した者がいる。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

講座に通う当人、家族にも講座に通うことで安心してもらっているようだ。日本に来た

ばかりの時は当人も不安であるので、家族との意思疎通のためにわかりやすく日本語、日本文化を教えることができた。また、すぐ働かなければならない人には仕事に必要なことばも教えることができた。必要に応じて日本語学校も紹介した。情報を提供する上でも役に立つことができたと思う。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

10月と11月に国民文化祭があり、観客に昼食等を提供する「おもてなしブース」で食べ物の販売を市から依頼され、10月31日、講座生も手伝って、中国人と日本人の会員とで餃子を販売した。笠岡青年会議所主催のイベントでも餃子販売を行った。世界の料理教室ではほとんどの講座生が参加。市民と食で交流した。笠岡市主催盆踊り「よっちゃれ」では、踊りの会の人にゆかたを着せて頂き、参加グループの一つとして、日本人と一緒に踊りに参加した。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

- a. 現状 突然、「今から」「明日から」お願いします、と家族が外国人を連れてくるので困ることがある。その日本語のレベルもさまざまである。また、講座に来なくなった生徒も我が子が小学校に進学し、日本語の学習の重要性に目覚め、再度通室するようになった。
- b. 今後の課題 最初はレベルの違う講座生にそれぞれ対応していたが、ボランティアの講師をいつも生徒のレベルに合わせて配置できるわけではなく、講師の確保に苦慮するようになった。講師の確保は現在の一番の課題である。また、外国人の滞在期間が進むにつれて、家族間や、子育てなどでいろいろな問題が増えてきた。行政や他機関との連携も特に重要となってきている。また、行政の解決策よりも時に外国人に寄り添う心情も重要という協会の、行政のフォローなど、行政との心からの協働の必要性を感じている。

b. 今後の活動予定、展望

文化庁委託講座を開始してから、講師の先生を安定して配置できるようになり、子供連れでも可能な講座にしているので、順調に生徒数も増えた。その生徒も初級から中級へと進んだ平成22年、これまで駅の近くにあった事務所を機構改革で市役所担当課の協働のまちづくり課とともに駅から徒歩20分の現在地に移転することが決定。すでに協会理事会でも承認を受けていたが、それを知った生徒たちが、「電車で来ている生徒がいる」「幼児を連れて雨の日や真夏に歩けない」ということで、市役所の市長室に直談判に行った。あいにく市長が不在で、後日市役所政策部次長、協働のまちづくり課課長、副統括と、日本語講座の生徒7人との話し合いが持たれた結果、日本語講座はJR笠岡駅近くの笠岡市中央公民館で行うことになり、継続している。当時

協会事務局、講師の立場は微妙なものとなったが、最初は日本人を恐れていたにもかかわらず日本語がここまで上達し、交渉という高度な作業が行えるようになったのは文化庁委託事業の成果だと思う。文化庁委託事業の日本語運営委員会報告書や実際の外国人の動向などから多文化共生事業としての日本語講座の重要性が理解され、予算的にも不足するであろうことも考慮され、日本語講座は、笠岡市が行政の責任で講座を継続するという事になった。これからも講座生の気持ちを優先させ、こころのよりどころとなるような教室にしたい。また、各大学や学校とも交流し実習の場として活用してもらったり、外国人に通訳となって災害時やいろいろな場で貢献・活躍してもらえよう、確たる教室として確立できるよう努力していきたい。

③その他参考資料(受講生に対してアンケート等があれば添付してください。)

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えのないものを添付すること。